



第五成算課處務順序



114  
A2291  
5



第五課 算課

於ラ整理セシ收入支出ノ勘定簿冊ヲ領  
收シ成算完結ノ精算表ヲ調理スルヲ掌レ其  
事務ヲ分ツテ二部トス

第一部

收入金穀ノ成算完結ノ精算表ヲ調理スル  
事ヲ掌ル

第二部

支出金穀ノ成算完結ノ精算表ヲ調理スル  
事ヲ掌ル

大正十一年四月  
大隈侯爵

事務順序

第一條

一凡ソ收入支出ノ精算表ハ勘定帳簿検査上ニ於テ毫モ差違ナキヲ保證シ收入及ヒ支出ノ額ヨリテ一日瞭然タラシメシメテ右院有使府縣勘定帳ノ既ニ調査正算完結ニ至ルモノニ就テ之ヲ精製シ正院及大藏卿ニ上達スルモノトス其順序ハ次條以下ニ掲ク

第二條

一凡ソ收入經費ノ勘定簿冊其諸般ノ手續ヲ了

シ全ク清帳ニ歸シテ後第四成算課ヨリ之ヲ本課ニ送致スレハ院有使ノ分ハ第二成算課府縣ノ分ハ第三成算課ヨリ内訳明細帳ヲ出サシメ照令勘査シ以テ精算表ヲ製ス

第三條

一經費精算表ハ常用準備ヲ始メ常費臨時費及ヒ定額内外ヲ区分シ費目ヲ概別シ而シテ前月ヨリノ越高本月ノ元請高拂高残高等ヲ詳明ニシ院有使府縣ヲ右別表トシ之ヲ製調ス

第十四号雜ルコト、ス

第四條

一 收入精算表ハ甲部乙部準備ヲ區分シ收入ノ  
名目ヲ明シ院省使府縣ヲ合セラ一表トシ之  
ヲ製調ス 第十五号雜形ノ如シ レコト、ス

第五條

一 精算表ヲ製スル先ツ勘定帳ヨリ類聚校正シ  
ラ下帳ト下表トシ作り專任ノ右課ニ回送シ  
誓查勘算違謬ナキヲ保シ寮頭ノ檢印ヲ了シ  
テ後之ヲ淨書ニ付ス

第六條

一 精算表ハ常ニ四葉ヲ製スルコト、ス而シテ  
其一葉ハ本寮ニ止メ其一葉ハ勘定帳及ニ内  
訳帳ト共ニ御ニ呈シ他ノ二葉ハ正院、工邊  
スルモノトス

第七條

一 精算表調成ノ期限ハ諸勘定帳全ク清整シ始  
メテ其帳簿ヲ受領セシ日ヨリ十五日間ヲ定  
度トス

但事故アリテ延日スルトキハ其旨ヲ寮頭  
ニ稟白ス可シ

第八條

一 翌年ニ至リ前年々末ノ既前及ヒ東京府ハ六月ハ六月分精算表調製完結ニ至ツラ後院有  
使廳府縣限リ前一歳ノ經費合計表第十六号  
シヲ調製シ又之ヲ總括共計シテ總計表第十七号  
雜形ノヲ作り併セラレ正院及ヒ御ニ上達スル  
モノトス

但製表ノ數ハ第六條ニ掲クル如ク右四葉  
ヲ製スルヲ要ス

第九條

一 收入合計表及ヒ總計表ヲ製スルノ順序モ前  
條ニ掲クルカ如シ

第十條

一 庫内ノ現貨出入及ヒ紙幣其他公債證書封印  
紙類製造并ニ銀行預ケ金有高等檢視ノ為メ  
寮頭ノ命ニ因リ右所ニ臨時出張スルコトアリ  
トス其詳細ハ本寮事務ノ順序第二十款ニ就  
テ見ル可シ

第十一條

一 課長ハ本課ノ事務ヲ擔当整理スルニ於テハ

寮頭ニ對シ其責任ヲ有ス故ニ一課事務ノ當  
否ヲ并論シ其意見ヲ陳述シ又課中屬官ノ能  
否勤惰ヲ監視シラ之ヲ寮頭ニ稟白スルヲ得

第十二條

一他ノ課事務ノ渋滞セルニヨリ本課ノ事務上  
ニ於テ障礙ヲ生スル等ノコトアルトキハ該課  
ニ對シ速ニ督促スルヲ要ス

改正掛務順序

大藏省

大藏省

七  
ノ

改正掛

歳入出ノ概計ヲ調査勘算シテ内訳明細簿ヲ製  
シ而シテ一般公布アル見込會計表ヲ根基トシ  
計算表等ニ據リ實際收出ノ多寡ヲ追調シテ歳  
入出決算明細簿ヲ製シ其他出納順序及ヒ検査  
法改正ニ関スル事務ヲ擔理ス

但方今出納順序及ヒ検査法改正順序割当ノ  
際百事着實精整ニ至ラシムルノ秋ナルヲ以  
テ該務ヲ掌管擔理セシムルタメ一時此掛ヲ  
置ト虽モ改正ノ順序一般慣熟百端整備ニ至



ルノ後ハ改正本ノ名義ヲ廢シ歲入出金穀調  
査ニ関スル事務ヲ擔理スルノ一課ヲ改置ス  
處務順序

第一條

一會計ノ年度ハ甲年七月ニ起リ乙年六月ニ至  
ルヲ以テ一歲トス而シテ此一歲中收入不可  
キノ金穀ハ前年歲尾ニ於テ其負額ヲ豫定シ  
以テ其年百般ノ經費ニ充用スルノ用途ヲ定  
立シ收入金穀ノ科目ト支出金穀ノ該目ヲ歴  
々列載シテ一編ノ計表トス之ヲ歲入出見込

會計表ト号シ一般ニ公布シ一歲會計ノ一  
大綱領トス而シテ其内訳明細簿ヲ製スルハ本  
寮本局ノ掌管タルヲ以テ之ヲ調製スルノ順  
序ハ歲入出見込内訳明細簿調査決算例則ニ  
詳カナリト虽モ其概要ヲ採摘シテ次條以下  
ニ掲グ

第二條

一内訳明細簿ヲ製スルヤ右廳ノ概計表及内訳  
明細簿ニ準據シ歲入出内訳明細簿ノ雛形ニ  
列載スル科目ニ照シテ毎科該負ヲ登録シ歲

入出見込會計表ノ根基トシテ之ヲ卿ニ呈シ  
卿ノ檢閲ヲ經テ後統計寮ニ送付スルモノト  
ス

第三條

一 各廳ノ經費内訳明細簿ハ調査精算ヲ了シテ  
其本廳支廳ノ費項大小科目ニ属スル金銀ノ  
負額ヲ列載シタル簿冊經費内訳帳ヲ製シ寮頭ノ  
檢閲ヲ了シテ後歲入出内訳明細簿ニ添へ卿  
ニ呈スルモノトス

但此簿冊ハ各廳ノ概計ニ對シ本年支給ス

可キノ額タルコトヲ証スル為メ見込會計  
表ニ付添シ正院ヨリ該廳ニ達スルノ振振  
トナル可キモノトス

第四條

一 此經費内訳帳ハ各廳ノ概計ヲ沙汰増減セシ  
上全ク支給スヘキノ額ヲ掲クルモノナレハ  
各廳ヨリ送致セシ處ノ概計高ヨリ増減ヤシ  
モノハ該額ノ傍ラニ其増減セシ主旨ヲ明記  
スルコトトス

第五條

一 税外收入内訳帳モ前條ノ例ニヨリ調整シテ  
 寮頭及関ノ工卿一呈スルモノトス  
 但租税内訳帳ハ租税寮ニテ之ヲ調査シ用  
 細簿ヲ作ツテ卿ニ呈シ卿ヨリ本寮ニ下付  
 スレハ本寮ヲヒテ又之ヲ誦直シ差違ナキ  
 ヲ保シテ後經費其他ノ内訳帳ト共ニ即ニ  
 呈スルコトトス

第六條

一 一歳收入支出スル金穀ノ多寡ヲ調理シ歳費  
 ノ目途ヲ確立スルハ會計ノ大基礎タルヲ以  
 テ須ク先ツ前年ニ於テ翌年一歳會計上ノ一  
 做フノ收入概計表ヲ調成シテ院有及ヒ東京  
 府ハ二月二日ヲ期トシテ本省ニ送致セシメ  
 其他ノ使府縣ハ二月二日ヲ以テ其廳ヲ榮遣  
 セシムルノ程期トス

第七條

一 收入支出ノ概計表ハ一歳會計ノ目途ヲ示スル  
 モノニシテ尤緊要ナルモノナレハ計表ノ外  
 別ニ出入金穀ノ科目及該額ヲ詳悉登録セシ  
 明細ナル内訳帳ヲ添付セシムルモノトス

出概計表及内訳帳ノ書式ハ  
第五号雜形ニ詳カナリ

第八條

一此内訳帳ハ本廳及部内ノ寮司支局ノ收入及  
ヒ經費ノ該類ヲ各々分門シ其品類ニ應シテ  
ラニ前一年或ハ三年五年ヲ平均シタル實額  
ヲ逐件掲記シ每廳聚集シテ一簿冊トシ科目  
ヲ逐ラ以テ概計表ニ登載スルモノトス然レ  
トモ前年ノ實額ノ如キハ内訳帳ノミニ掲記  
スヘキモノニシテ概計表ニハ之ヲ掲ケス

第九條

一各廳ヨリ送致スル第一策ノ租稅概計表及内  
訳明細簿ハ本省ニ送付スルニ随ヒ租稅寮ニ  
テ之ヲ受ケ一歳收入ノ多寡ヲ精覈淘汰シ各  
廳ヲ収束シ三月十日ヲ期シテ卿ニ呈シ卿ノ  
一阅ヲ了シテ後本寮ニ接受スルモノナレハ  
本寮之ヲ受領シテ調成スルコトトス

第十條

一各廳ヨリ送致スル稅外收入概計表ハ内言日  
細簿ニ之ヲ接受スルニ随ヒ本寮本局ニ於テ  
之ヲ精理シ前ハ八ヶ月前一ヶ年ノ實納高ニ

比照シテ之ヲ調査ス

第十一條

一 各廳經費ノ概計表及内訳明細簿ハ其ノ本邦ニ受ケ受付課ヲ經テ本局ニ受領ス而シテ五ヶ年三ヶ年或ハ前十八ヶ月前一ヶ年ノ實費ト比較照査シ事由金額ノ不明子ニシテ解シ難キモノハ其廳ニ就テ推問精究ス可キトト、ス

但豫算内訳明細簿ヲ調査シ定額ヲ計算スルハ各科目ニ就テ其調査ノ方法毎歲異同

と  
13

ナシトセス故ニ每歲其方針ヲ調整シ之ヲ察頭ニ出ス頭関了捺印ノ上受付ノ順序ヲ經テ卿ノ決判ヲ受ケ此方則之ヲ調査ニ據概則ト云リ調査スルコトト、ス

第十二條

一 各廳收入支出ノ概計表ハ地方ノ遠近ニ依リテ送日數ノ遲速アリト虽ニ斷シテ二月二日ヲ以テ各廳ヲ送スルノ程期トスレハ三月一日ニハ必ス本府ニ送致スルヲ豫定ス可シトニ此期日ヨリ九ノ三十日間ヲ以テ明細簿ヲ

大  
歳  
首

報スルノ限日トシ四月二日ヲ以テ脚ニ呈スルノ期日トス

但各廳ハ推問ス可キモノハ此限ニテ了ス  
ト虽モ精々迅速取調ヘ期日内ニ製調スルヲ要ス

第十三條

右廳ヨリ送致スル概計表及内訳帳ノ内其事業ノ興廢ニ随ヒ費額ノ増減スルモノハ其事項ヲ詳記セシモノナリト虽モ其事由若シ不明了ニシテ前年ノ實費ヨリ超過スルノ費額

アレハ該廳ニ對シ推問精究シ若シ其概計不當ナリト認ルトキハ調査概則ニ準據シテ之ヲ減額シ寮頭檢印ノ上受付ノ順序ヲ經テ脚ニ呈スルコトトス

但各廳ニ推究スルコトナルトキハ其事由ヲ記載シ寮頭ノ檢印ヲ了シテ後彙并スハキコトトス以下做之

第十四條

一一般出入ノ金額ヲ合計スルニ方リ收入ノ金額支出ノ金額ニ不及シテ不足ヲ生スル等

ノ事ナレハ右廳事務ノ緩急ヲ量リ審察熟議  
以テ差額減削ノ見込書ヲ作リ察頭ノ檢印ヲ  
了シテ後之ヲ御ニ呈スルコト、ス

第十五條

一見込會計表ハ右廳ヨリ送付スレ概計表及  
記簿ニ據リ之ヲ沙汰増減シ或ハ増減セサル  
モ其年交付スヘキ經費ノ如キハ之ヲ逐件記  
記シテ公布ス可キモノトス故ニ右廳ニ属ス  
ルノ經費ハ必ラス右廳ニ對シ交付ス可キノ  
額タルコトヲ明カニ公達アルヘク猶本省ハ

ハ其内記ヲ詳記シタル簿冊ヲ下達アルヘキ  
ナレハ該書類ノ寫ハ本寮ニ接受シ本局ニ於  
テ之ヲ根據トシテ歳入出金穀ノ計數ヲ追詔  
精理スルコト、ス

但此會計表ハ五月十五日ヲ以テ一般公達  
アル可キモノトス

第十六條

一見込會計表ハ一歳ノ收入支出ヲ豫算シテ  
會計ノ目途ヲ立ツルモノナレハ猶實際ニ就  
テ收出ノ金穀ヲ勘査追詔シ其確數ヲ得テ以

ラ一編ニ存録ス之ヲ歳入出精算内訳明細簿  
ト云々之ヲ製スルノ順序ハ歳入出精算内訳  
明細簿調査成算例則ニ詳カナリ

第十七條

一精算内訳明細簿ハ見込會計表ノ該目ニ準  
シ實際収出セシ處ノ金穀ヲ追查推求シ前年  
ノ精算前々年七月ヨリ前年六月ハ翌年一月  
ヲ期トシ之ヲ調成ス察頭檢了シテ後之ヲ即  
ニ呈シ其覽閱ヲ經テ之ヲ統計寮ニ付シ精算  
會計表ヲ作ラシメ三月二日ヲ期トシ正院ハ

上達スヘキモノトス

第十八條

一精算表ヲ製スルノ基礎ト為サンカタメ歳入  
出追查簿ヲ製シ日々收入支出スル處ノ金穀  
ハ見込會計表ノ該目ニ照査シ追查簿及租税  
寮月報ヨリ登録シ豫算ノ金穀ト實際収出ス  
ル處ノ金穀ト其精算高トシ差引勘算シ以  
毎科金穀ノ贏餘不足ヲ調算ス

第十九條

一追查簿ハ租税ヲ始メ其他ノ收入金穀及ヒ百



般ノ經費ニシテ其年相当スル  
年六月マラニ收入スルハキ金穀ハ延納スルコトハ  
 明治八年七月ヨリ九年六月マラニ  
 追調簿ニ登録ス可シ以下之ニ依テ  
 收入ハ此帳簿ニ遺漏ナク列載シテ豫算ノ  
 額ト其精算トシ比較計算ス可キモノナリ  
 登録スルノ順序ハ別記ニ詳ニス

第二十條

一 歳入出見込内訳明細簿及精算内訳明細簿且  
 調簿等ノ書式体裁及ヒ表出スル該目等ハ第  
 二三四号雜形ニ詳悉ナレハ之ヲ調成スルニ

方リ然ラ此雜形該目ニ準據ス可キモノトス  
 而シテ歳入出内訳明細簿ノ如キハ其年ノ景  
 況ニ應シテ斟量参査シ卿ノ決裁ヲ乞テ以テ  
 之ヲ調成スルコトトス

第二十一條

一 右廳ヨリ送付スル概計表ハ豫算ノ金穀ト實  
 際收出スル處ノ金穀ニ比照調査スル為メ一  
 歳ニ五兼ヲ要スルモノトス而シテ各廳三リ  
 送致スルノ期限ハ其第一兼ハ前年於テ  
 經費ヲ見積リ内訳帳ヲ第六條ニ掲クル期限  
 添付スルモノトス

ニヨリテ送致シ第二兼ハ七月ヨリ十月二十  
 日第三兼ハ十月ヨリ一月二十日第四兼ハ一  
 月ヨリ三月ヨリ四月二十日第五兼ハ四月ヨリ七月ニ  
 十日ヲ期トス故ニ既有廳及ヒ東京府ハ此日  
 シ以テ本省ニ送致シ使府縣ノ介ハ同月同日  
 該廳ヲ祭ス可キモノトス

但遠隔ノ地ニアル支廳ノ介計表編入方ハ  
 勘定帳編成期程ニ異ナルナシ

第二十二條

一二兼以下ノ統計表ハ一々年收出スヘキノ概

額ト實際收出セシ額ト其計算高等ヲ比較ス  
 ル為ニ差出スヘキモノナレバ租税ニ属スル  
 ニラ之ヲ受ク同寮於テ調査シ了之ヲ本寮ニ  
 シラ即ニ呈シ御ヨリ本寮ニ付ス  
 接受シ第二第三等ノ成算課ニ於テ表面ノ高  
 ト勘定帳ノ精算高トシ照合シ差異ナキヲ保  
 証シラ本局ニ送致ス本局ヲヒシハ其年金穀  
 ノ現實收入スルモノ及ヒ支出スルモノトシ  
 負數ヲ把テ歲入出追調簿ニ掲クルモノノ對  
 照シ歲入出ノ目途高ヨリ増殖スルモノ及ヒ  
 不足スルモノトヲ精査シ以テ入出ノ總計シ

調査ス若シ勘定帳調査ノ上決算高ニ差異ヲ  
生スルトキハ其旨ヲ同課ヨリ報知ス可キ筈  
ナレハ本局ヲヒテハ尚此報知ニ因リ計表ハ  
決算高ヲ訂正スルコト、ス

但租税及事業ノ興廢ニ因リ没出金穀ノ増  
減アルモノハ第二彙以下ノ計表ト虽モ必  
ス内訳明細簿ヲ添付セシムルヲ則トスル  
此二彙以下ノ計表ハ調査勘算ノ後寮頭檢  
閲ノ上御ノ一閱ニ供シ了ツテ本局ニ備フ  
ルモノトス

第二十三條

一此二彙以下ノ計表ハ歲入出追調簿ニ照査シ  
差異ナキヲ保シテ後財計ノ實況ヲ審判スル  
為メ若廳收入支出ノ額ヲ通計シテ一ノ計表  
ヲ製シ寮頭檢印ノ上御ノ覽閱ニ供スルコト  
ス  
但御一閱ノ上正院へ上申アル可キモノト  
ス

第二十四條

一造幣鑿鏡製作鉄道電信其他總テ増殖收

入アル事業ニ関スルモノハ其費用ト収入ト  
ノ金額ヲ比較勘査セサル可ラス故ニ費用收  
入判明ナル比較報告ヲ製シ毎三ヶ月ヲ區分  
シ翌月二十日限り右廳ヨリ本省へ送致セシ  
ムルモノトス

但此比較表ハ右事業ニ因テ其体裁一様ナ  
ラス其調製ノ方法ハ第十八号雜形ニ詳カ  
ナリ

第二十五條

一此比較表ハ右廳ヨリ本省へ送致スルニ随ヒ

之ヲ本寮ニ送付スレハ先ツ第二成算課ヲヒ  
テ經費收入勘定帳ノ金額ニ照査シ差異ナキ  
ヲ保シテ当局ニ回送スルモノトス

第二十六條

一費用收入ノ金額差異ナキモノハ其比較表ヲ  
根據トシ右事業費用收入ノ金額合計比較表  
第十九号雜形ノ如シヲ調製シ寮頭檢了シテ後御及ヒ心  
院ニ上呈ス

但右廳ヨリ送致スル比較表ハ合計比較表  
ト共ニ御ニ呈シ御展閱ノ後之ヲ本局ニ止

ム

第二十七條

一 毎三ヶ月ノ比較表一周年ノ分全備スルニ至  
リ右事業一周年費用收入ノ金額總計比較表  
第二十号雜  
形ノ如シ  
調製シ寮頭檢了シテ後卿及ヒ正  
院ニ上呈ス

但前條々ニ掲クル正院ニ上達スルモノハ  
受付課ヲ經テ本省文書課往復掛ニ送致ス  
ルコトトス

第二十八條

一 歳入出豫算決算ニ関スル定規中實際ノ施為  
ニヨリ之カ方法ヲ設ケ又ハ改正ヲ要スルコ  
トアルトキハ其法案ヲ具シ寮頭ヲ經テ卿ニ  
呈スルノ順序ヲナス

第二十九條

一 歳入出豫算決算ニ関スル成規中了解シ難キ  
件アリテ諮問ヲ受ルトキハ之レカ回答或  
指令按ヲ具シ寮頭ノ決判ヲ請ケ補則ヲ調成  
スルコトトス

第三十條

大蔵省

一本局處務上ニ於テ右課ノ照準トナルヘキ條件ハ速カニ右課ヘ報知スルコト、ス

### 第三十一條

一左ニ記載スル條件ノ回議冊ハ其当否ヲ検査スルコト、ス

一歳入出豫算決算ノ事務ニ関スル件

一総テ出納順序改正ニ関スル件

一出納上ニ於テ將來成規トナル可キ件

一甲部乙部準備ノ區分勘定及計算年度ニ

関スル件

### 第三十二條

一課長ハ本課ノ事務ヲ擔當整理スルニ於テハ寮頭ニ對シ其責任ヲ有ス故ニ一課事務ノ当否ヲ并論シ其意見ヲ陳述シ又課中属官ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ寮頭ニ稟白スルヲ得

### 第三十三條

一他ノ課事務ノ渋滞セルニヨリ本局ノ事務上ニ於テ障碍ヲ生スル等ノコトアルトキハ該課ニ對シ速ニ督促スルヲ要ス

諸務課處務順序

大藏省

大藏省



大  
痛  
省